

1. 総評

(1) 年度初めの学校の状況 【学校の現状及び前年度の成果と課題】**【今年度の現状】**

○児童について

- ・基本的な生活習慣の定着が進み、遅刻者や欠席者も減少した。子供らしい児童が多く、全体に落ち着いた学校生活を送っている。
- ・自分のめあてに向かって継続して取り組むことはまだ十分ではない。努力の過程を認めて自己肯定感を高め、自分や他人を愛することができて、頭と心と体のバランスの良い発達を育てることは継続していかなければならない。

○教職員について

- ・昨年度まで教務の要であった主幹教諭の異動、長年生活指導を担当した主任教諭が異動となり、新たな主幹教諭の元、これまでの組織的な対応を生かして新たな組織運営の見直しを行い、基礎学力の定着、教員の指導力向上を目指すための場や時間を増やすことに着手した。

○保護者・地域について

- ・「桜花小学校の児童のために」共通の目指す児童の姿の元、開かれた学校づくり協議会を中心に、PTAOBやPTA役員も積極的に支援体制を組織化している。

【前年度の成果と課題】

○基礎的・基本的な学習内容の定着

S P表や単元テストの躓き解消を図る補習を強化。そだち指導による個別指導で3・4年生を平均10回程度の指導により卒業させることができた。

単元テストでも、8割以上の内容を8割以上の児童が達成するという高い目標値の設定であったが、3月末の国・算数ともに80%を超える結果となった。前学年の躓き解消や基本事項の完全習得が、定着度の向上に大きく関係することが実践から体得できた。習熟段階を重視した補習やそだち指導等の取り組みを継続して、基礎学力をより一層定着させていく。

②心の教育と自己肯定感の育成

昨年度よりも肯定感は向上している。自分の良さへの認識度率84%、得意なことへの認識度率95%、自分のことが好きと感じる割合は90%であり、3項目平均値は95%で目標を達成。昨年度よりも学校全体で10%の上昇であった。地域での挨拶実施は数値的には表れているが、実際の評価はまだまだである。地域から、学校から相互に効果を実感できるような取り組みを継続する必要がある。

③健康な体づくりと体力の向上

目標としていた欠席者数の減少は前年度一日平均20人を超えていたものが、今年度はほぼ半減するまでに至った。基本的な生活習慣の確立、感染症予防に対するうがい・手洗い習慣の継続の効果が表れたものと思われる。免疫力・抵抗力の強化を図るため、次年度は、持久力を向上させたい。持久走、マラソン週間等を通じて常に一人一人に具体的な目標をもたせ、努力することを重視する。

(2) 今年度の重点目標とそれに向けた取組みの概要**重点的な取組事項－1 学力向上（基礎的・基本的な学習内容の定着）**

- ・基礎的な学習内容の定着とつまずきの解消を図る取り組みを進め、校内学力再調査を行って習熟度を測る。
- ・国語と算数の単元テストの8割以上の内容を8割以上の児童に定着させる。
- ・桜花ステップアップテストを活用して基礎学力を定着させる。
- ・補習教室を充実させて、必要な児童への支援を行う。
- ・家庭学習のめやすを改訂し、集中できる時間と内容を示し、家庭での学習確保に努める。

重点的な取組事項－2 心の教育と自己肯定感の育成

- ・自己肯定感調査を実施し、必要な児童に対してSCによる面接を実施。
- ・人権と大切にする教育を進め、校内・郊外における挨拶運動の推進
- ・言語活動推進のため、読書環境を充実させるとともに読書目標値を示して読書を奨励し、達成者を表彰して意欲を高める。

重点的な取組事項－3 小中連携の授業研究で伸ばす 思考力・判断力・表現力

- ・言語活動の推進を図る小中連携活動を推進するため、年間10回の連携協議会を実施する。
- ・授業改善を目指す小中交互の全校授業公開と協議会を実施する。
- ・授業交流を通して、外国語活動と英語学習、各教科の学びが連続する言語活動の推進を目指し、思考力・判断力・表現力を9年間のサイクルで育てる。
- ・行事交流を継続する。

(3) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項－１ 基本的・基礎的な学習内容の定着

○27年度の区学力調査結果は2教科平均75.3%であり、昨年度比1.8%の上昇。算数においては2%上昇。国語も同様に5%上昇した。各学年では2年生を除いて、算数よりも国語の数値が下回っている。国語は分野ごとの結果では「読み取る力」が伸びやなんである結果であった。1月末現在における単元テストの80点以上の達成率は、国語80%、算数81%であり、ともに前年度より定着が進んでいる。各学年家庭学習時間の平均値では、年間3回の調査結果のいずれも全学年が達成している。達成者の割合も毎回上昇しており80%を超えている。宿題の自主提出率は、90%を超えている。各学級の実績を保護者と共有し、家庭の理解を得て、協力して一生涯の基礎となる学習習慣を完全に定着させていきたい。

重点的な取組事項－２ 心の教育の充実と自己肯定感の育成

- 児童の自己評価による地域での挨拶実施率は約93%と高位である。児童の自主的な式である「挨拶応援隊」を全校朝会で紹介し、啓発を行うとともに、ボランティア人数も増員し、朝会での講話や定期的な振り返りを通して意識化と実践を促してきた。自己肯定感を高めるために全校で取り組んでいる「一日一賞賛運動」は様々な呼名や形式で実施されており、実施割合は9割を越えている。読書活動は3月末までに8割を達成する見込みである。ボランティア活動は計画通りに実施でき、自分の良さを人のために生かす気持ちを育むことにつながっている。地域清掃活動は、クリーンデイの取組として各学級で実施することができた。自己肯定感については、児童への調査を行うとともに、結果を担任やスクールカウンセラーと共有し、必要な児童に対しては適時状況を確認することを行ってきた。特別支援教育の推進については、城北特別支援学校の児童と直接交流を実施し、行事のみならず通常の授業への参加も回数を増やすことができた。
- 欠席者数は、今年度は1日平均10人となり昨年度よりも減少した。原因として、－300人という目標は達成できなかったが、不登校傾向児童の出席率がわずかながら向上。児童も家族も教員も、そして地域の方の努力が実を結んだものと思われる。学校給食の残菜率は4月～1月までの平均が1.2%であり、区の平均値の半分であった。給食委員会の啓蒙活動により、残菜が少なくなっている。
- 基本的な生活習慣も、定着率の向上が見える。高学年の就寝時刻が遅くなってきており、今後も、生活のリズムを整える事が健康な体づくりのもとになり、遅刻や欠席児童の減少につながることを啓発していく。

重点的な取組事項－３ 小中連携の授業研究で伸ばす 思考力・判断力・表現力

- 学力向上を図る小中連携活動を推進するため、小中ともに視点を絞って全学級の授業公開を行った。担当者間の授業の交流を進め、各教科においては、授業規律と学習習慣のスタンダードの共有と次年度の授業研究軸となる読むことを通して思考力や表現力をつけさせるために「言語活動に着目した授業研究」に関して協議を深めることができた。今後、より検証を深めるために指導方法や、授業の展開方法を工夫していく。

(4) 保護者や地域へのメッセージ

○児童には学習場面に合わせて目標をもたせ、その達成にむけて努力させることを大切にしてきました。互いの良さを認め合い助け合って生きる知恵を身につけるために自己肯定感を高める活動や読書活動を大切にしてきました。健康な体づくりのために、基本的な生活リズムを整え、運動面では自己の目標を決めて記録を伸ばすことに挑戦させてきました。学習したことの8割以上を身に付けること目標にして、様々な取り組みを行ってきました。これらの教育活動は、学校だけで完結できるものではありません。家庭の協力が不可欠です。

今年度も、教職員の放課後学習の継続をはじめ、PTA役員・保護者の皆様・開かれた学校づくり協議会委員やPTAOB会の皆様の御支援で、土曜授業や桜花基礎学習教室への学習支援ボランティアを充実することができました。学力調査の結果からも、基礎学力定着取組を維持し、結果に結びついていると思われます。あらためてご協力いただいたことに感謝いたします。

次年度もより一層、桜花小で学ぶ児童の頭と心と体を鍛え、バランスの良い成長につながるよう以下のことについて、特段のご協力をお願いいたします。

- ①土曜授業日や桜花基礎学習教室などを継続し、基礎学力の定着を進めます。
そのため、学習ボランティアへのご協力をお願いします。
- ②地域での挨拶率をもっと高めます。
そのため、「挨拶応援隊」へのご協力をお願いします。
- ③御家庭にお願いしたいことは
○基本的な生活習慣の定着に御家庭の協力が不可欠です。
前日の内に学校の準備をする、夜更かしをしない、朝は決まった時間に起きる、学校へ送り出す等の保護者の皆様からの働きかけが不可欠です。
○家庭学習習慣を確実に身につけさせましょう。

家庭学習時間が大分増えてきました。しかし、まだ定着にはなっていません。小学生の時期が肝心です。生涯にわたって学ぶ姿勢や習慣を身に付けさせることを目標にしましょう。
 ○努力していることや努力したことを認め、ほめることを大切にしましょう。
 「自分には良いところがある」「自分にはとくいなことがある」「自分のことがすき」という項目がすべて100%になることを目標にします。学校だけではなく、御家庭でもきらりと光る良いところを見つけ、お子様を褒めてください。
 ☆自分に自信と誇りをもち、目標をもって努力する心が育てば、学ぶ喜びを知り、達成感も実感できることでしょう。これからも生き生きと学ぶ子どもたちを育てていくことに、御協力をお願いいたします。

2. 平成□□年度の重点的な取組事項

＜達成度 ○:十分に達成 ◎:おおむね達成 △:達成せず ●:課題が残る＞

重点的な取組事項－1 学力向上

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
基礎的な学習内容の定着を図り、区学力総合調査の目標値の通過率を上げる。	全校平均の通過率を72%とする	4月実施結果 全校通過率75.3% 全校国語73.2% 全校算数77.4% 昨年度比 全校通過率1.5%上昇 全校国語8%上昇 全校算数2%下降	昨年度よりわずかであるが全体の通過率は上昇した。課題は国語における「読み取る力」であり、全学年共通した課題である。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「桜花ステップアップテスト」を活用して、国語・算数の基礎学力を定着させる。	○80点合格、全児童の9割以上の達成。	○小テストやまとめのテストを実施し合格証を発行。個人カードを作成し、家庭へ周知し連携する。 ○全教員によるスキルアップタイム指導の実施。	○1月時点の達成率 国語 95% 算数 94% で達成 (予想値)	○本校の児童の実態からは反復が欠かせない。教職員はもちろん保護者の協力を増やす。	○
国語及び算数の単元テストの正答率・通過率を上げる。	○8割の内容を8割以上の児童に定着させる。	○国語は、3年以上TT・少人数指導。 ○説明文の読解・単元を貫く言語活動を重視し、全学年が授業研究を実施。小中連携のテーマとも関連図けを行う ○算数は、3年以上習熟度別指導。 ○ポートフォリオをもとに担任補習で単元テストの躓きを解消。	○1月末段階で8割以上の内容を習得した児童の割合(達成率)は、 国語約 82% 算数約 84% で達成。	○ステップアップテストの内容と量を見直す。より児童の個別の課題に即した内容と量、指導形態を検証し、改める	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
前学年のつまずきの解消を図り、基礎学力を積み上げ、当該学年の定着度を上げる。	1 0 月 校 内 調 査 を 行 い 比 較 ○国語・算数 全校平均 総合 10 P 向 上 2 月 に 校 内 調 査 を 行 い 測 定 ○国語・算数 の 正 答 率 80%。 国語・算数 の 通 過 率 75%。	○ステップアップテスト、放課後学習、スキルアップタイム等の担任による指導。 ○そだち指導における3・4年生から抽出した児童への個別指導 ○土曜日学習 ○開かれた学校づくり協議会の協力による、桜花基礎学習教室の実施 ○足立スタンダードによる問題解決型学習スタイルの定着	1 0 月 調 査 結 果 か ら 国語 76.68% 算数 75.65% 全体 76.16% 2 月 校 内 調 査 結 果 予 想 値 国語 算数 全体	1 0 月 結 果 は、 国語に対して 前年度の躓きを 解消するた めの取組が若 干ではあるが 効果があった。	○

重点的な取組事項－２ 心の教育と自己肯定感の育成

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自分の価値を認め、他人と円滑なコミュニケーションをとることのできる児童の育成	○児童アンケート調査、総合 85%以上。	○自己肯定感調査 3 項目ともに 80%を超え、平均 89.9%で達成。	自己の存在を認め、他人の存在を互いに認め合える児童が増えている。全体の達成率も大切であるが、個々のケースにも着目し、担任や SC 等の関係諸機関との連携も強めていく。	○

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
あいさつ習慣の定着を図る。	登校下校中に学校外で出会った人に自分から挨拶する 80%	全校児童朝会で「挨拶応援隊」を表彰して、意識を高める 応援隊の人員を 5 人以上増員。 年 2 回振り返り調査を実施。	○地域での挨拶率自己評価は 95%。 ○応援隊は 6 年生 5 名で構成 ○調査は全学年で実施した。	自己評価と外部評価では差が生じている。	▲
人権教育の推進と交流活動の推進	高齢者との交流 4 年以下完全実施。 副籍制度を活用した特別支援学校との交流を 2 回実施	2.4 年の高齢者施設への訪問。 ふれあい給食への高齢者の招待。 城北特別支援学校、南花畑特別支援学校児童の直接交流（体育、音楽、図工等）	○高齢者への訪問は実施。ふれあい給食も参加者 10 名 ○城北特別支援学校児童 1 名が直接交流を実施することができた。	副籍交流は本校特別支援学級との間であった。本来の主旨である通常学級との交流を増やす	▲
豊かな心を育み言語活動を高める読書活動の推進	低学年 120 冊以上 中学年 35 冊以上 (3500p) 高学年 30 冊以上 (4500p)	週 3 回の朝読書時間の設定。 担任や図書ボランティアによる読み語り、全学級 2 回以上の実施。 読書カードへの記録指導。 達成者の学年末表彰。	○1 月末段階 低学年 70% 中学年 68% 高学年 65% 全校 約 67% (予想値)	○3 月中旬まで継続すると目標値に達する割合も 8 割を超える見込み。	○

重点的な取組事項－３小中連携の授業研究で伸ばす 思考力・判断力・表現力

今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
連結表をもとに、選択教科の課題となる項目を強化する指導方法の工夫と学びが連続する。	連結表をもとにしたスタンダードの作成。 ２７年度は家庭学習に関するスタンダードを作成する。	小学校側からの家庭学習スタンダードの提示を行い、中学校側と協議を行ったが、作成までには至らなかった。	中学側にはこれまで家庭学習のスタンダードについて検討する機会がなかったが、小中連携の観点から問題提起を行うことはできた。	▲

目標実現に向けた取組み	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
連携授業研究会を通した指導法の工夫。	年間１０回の協議会を設定	管理職と推進者で、連携会議を年４回実施し、進捗状況を確認し推進する。 研究担当、教務主幹間で授業研究会の日程調整をする。 言語活動を重視した授業展開の手法を体系化する。 ブロック責任者が教科連携推進者となり日常的に連絡を取り合う。 指導案作成の段階から担当者間で連携をする。	○連携会議と授業研究は計画通り実施。教科ごとの指導案検討の企画を設定し、小中が接続するため目標と手立てを確認して授業研究を実施することができた。	○小学校中学校共に、言語活動の充実に視点を絞って実施。学力向上につながる授業研究にすることを意識化。次年度の方向性確認。	○
授業交流の推進	北中英語科と本校外国語活動の交流を推進	花畑北中学校英語科教員によるゲストティーチング。年間３回実施	○英語のアドバイザーや中学の英語教員、小学校の担当者の連携が進んでいる	○主幹や担当者や中学校の英語担当教員、授業交流、研究授業を通じての交流が増加	○
学力向上連携スタンダードの作成。	家庭学習スタンダードの作成。	授業規律、授業展開、家庭学習のスタンダード作成を目指したが、未完成。 連携授業研究会において「家庭学習スタンダード作成」を教務主幹と研究主任が、調整役となつてすすめる。	○小学校側からの授業規律の提案を行った。小中連携の視点から中学校側の検討を進めたい。	○家庭学習に関する内容を次年度は中学校側に積極的に提案し、方向性を検討する。	▲

３．学校活動全般について

○学力向上を図る取り組みを重視し継続してきた。今年度も、「そだち指導」のような躓きの解消を図る取り組みの指定としての経験を生かして、実践を重ねてきた。今年度も学習の積み重ねが強くなっている。特別な支援の必要な児童が増加し、個別対応で指導を行ってきたが、支援に窮しており、緊急の支援を必要としている。

総体的には、児童が自己肯定感を高め、自分の目標を明確にもって努力する生活が整ってきていると言える。このことは、全教職員が協働して教育活動にあたり、取り組みを継続させてきた結果である。次年度は、今年度効果のあったことを継続するとともに、以下のことを重点的に充実させたい。

1、基礎的・基本的な学習内容の8割定着をすすめる 3年以上の算数・国語の少人数指導やTT指導で 学力定着のデータ化と改善への反映 教科指導員による教員授業力向上(本校を拠点校とする。6年次以下の若手教員を対象) そだち指導によるつまずきの解消(3・4年対象 国語・算数の2教科) 2、定着度を補う補習指導 (1) 単元ごとのこまめな補習 (2) 既習内容の躓きを解消する補習の充実 ① 躓きを少なくして学習の積み重ねを確実にする放課後補習体制の継続 ② 到達レベルを決めて補習をする開かれた学校づくり協議会による「桜花基礎学習教室」の継続 3、授業規律の定着と授業改善の推進 (1) 授業規律の定着 (2) 「桜花学習スタンダード」の定着 (3) 活用力を伸ばす授業の充実: 言語活動を重視 4、読書活動をささえる環境設定の整備。新聞を活用した学習の推進 5、体力向上を図る計画の見直し⇒持久力をよく伸ばす指導 6、言語活動に着目した小中連携の授業研究の推進 ○、その他 自己肯定感、自分を愛することのできる児童をさらに増やしたい。地域の支援を更にいただき、花畑で育った児童が成長し、自分が支援できるような環境を整えたい。そのためには挨拶運動を始め、課外活動の実施や、清掃活動、ボランティア活動など、学習面以外で活躍できる場や環境を地域とともに整備し、発展させていきたいと考えている。まだまだ時間のかかる活動ではあるが、学校・地域・保護者の三者で子供を育てる教育の場の一つとなり、地域社会とつながる活動でもあるため、継続していく。	
--	--